

2024

11.13 (水)

12:10  
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン  
(Zoom)

登録はこちら▶▶

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_gQbQQfHOSSikB9A8pm23WA](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_gQbQQfHOSSikB9A8pm23WA)

【技術支援】九州大学 Q-AOS

# 災害時の農業ボランティア活動 × 平時の田園保全



Key Words

里地・里山保全

ボランティア

災害

広葉樹林

UAV

**朝廣 和夫** 教授

九州大学 芸術工学研究院 環境設計部門

宮崎県出身。1995年九州芸術工科大学大学院を修了し、1995年(株)アーバンデザインコンサルタントを経て、1996年九州芸術工科大学環境設計学科助手として赴任しました。2004年英国ロンドン大学インペリアル校在外研究員として滞在し、2006年に博士(芸術工学)を取得しました。2009年九州大学大学院芸術工学研究院准教授、2023年に同教授として活動しています。

専門は緑地保全学と称しており、主なテーマは、都市及び農山村における緑地環境の保全を目的とし、里山保全のボランティア活動をベースに、都市林や農山村の緑地を対象にアクションリサーチを展開してきました。ここ十数年は、それらの知見を「中山間地水害後の農林地復旧支援モデルに関する研究」や、「パングラデシュ・テクナフ半島における緑地保全研究」に応用。現在は、UAV-LiDAR、いわゆるドローンを用いた里山林の情報化と管理活用に関する研究を進めています。

受賞については、2018年に、アジア景観デザイン学会 景観研究賞をいただいています。主な著書としては、「災害後の農地復旧のための共助支援の手引き」を2016年、2020年に改訂版を公開。その他、共著で、「よみがえれ里山・里地・里海・里山・里地の変化と保全活動」築地書館(2010年)、「デザイン教育のススメ～体験・実践型コミュニケーションを学ぶ～」花書院(2012年)、「Deforestation in the Teknaf Peninsula of Bangladesh」Springer(2017年)、「ソーシャルアートラボ地域と社会をひらく」水曜社(2018)、「アートマネジメントと社会包摂」水曜社(2021年)などがあります。

プロジェクト等については、各地の里山保全や農山村の保全、都市緑地や文化財、まちづくりの各種計画づくりや実践活動のアドバイスを行うとともに、芸術工学研究院では、2015年より九州大学ソーシャルアートラボのコアメンバーとして、奥八女芸農学校など、教育・研究・実践・提言活動を継続。2012年7月九州北部豪雨以降の災害では、仮設住宅支援、農地復旧支援、九州大学復興支援団での地域支援活動を継続してきました。

本日の話題は、私が長年、教育・研究で携わってきた里地・里山保全活動と、災害時の農業ボランティア活動の展開について紹介します。まず、環境設計という学び舎を修了した私の教育・研究・実践の経緯と概要です。続いて、里地・里山保全ボランティア活動の展開について、その役割と得られるコトについて触れます。そして、2012年ごろから展開しだした災害時の農業ボランティア活動のメカニズムについてご紹介します。